

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

きょうと福祉ネットワーク一期一会

② 評価調査者研修修了番号

SK18140

③ 施設名等

名称：	舞鶴双葉寮
施設長氏名：	仙田修二
定員：	70名
所在地(都道府県)：	京都府
所在地(市町村以下)：	舞鶴市桃山町7-5
T E L：	0773-62-0122
U R L：	futaba@sirius.ocn.ne.jp
【施設の概要】	
開設年月日	1946/7/10
経営法人・設置主体(法人名等)：	社会福祉法人舞鶴双葉寮
職員数 常勤職員：	24名
職員数 非常勤職員：	名
専門職員の名称(ア)	社会福祉士、保育士、栄養士
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称(イ)	社会福祉士
上記専門職員の人数：	6名
専門職員の名称(ウ)	保育士
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称(エ)	
上記専門職員の人数：	6名
専門職員の名称(オ)	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(カ)	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要(ア)居室数：	
施設設備の概要(イ)設備等：	
施設設備の概要(ウ)：	
施設設備の概要(エ)：	

④ 理念・基本方針

入所児童のひとりひとりが、他にかけがえない人格的存在であることを確認し、児童と職員、児童と児童の信頼関係と集団生活の体験を軸として日常的・個別的・集団的指導により自動自らが、様々な損利敵、社会的障害を克服し、最大限の自己実現を目指すよう努力させる。
--

⑤ 施設の特徴的な取組

児童養護施設ばかりでなく、併設事業を通して、子どもをトータルに支援する努力をしている。また社会貢献を重要視しており、地域との信頼関係にも努力している。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2018/1/6
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2018/7/17
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

舞鶴双葉寮は、東舞鶴駅より徒歩数分圏内の閑静な住宅街の中にあります。事業としては、児童養護施設地域のほかに地域の子どもも対象にした子育て短期支援事業（デイ・ショート・トワイライトの各サービス事業）、放課後児童健全育成事業を実施しています。施設は、大舎制ですが、家族的な雰囲気の中で子どもが自己肯定感を持てるようにきめ細かな支援が行われています。、「のび行く会」などを通して子どもの意見を聞く仕組みもできています。また、卒業後のアフターケアにも力を入れており、卒業の際には、「さようなら」ではなく、「いつてらっしゃい」という言葉かけをし、卒業生が帰省してきたり、入所中の子供に進路のアドバイスをするなど交流もあります。職員に対する信頼があるからこそその現れであり高く評価できます。地域との関係も良好で地域の清掃への参加、積雪時の雪かき、施設行事への招待等、地域との密な交流が行われています。

現在、国の動向の中で里親制度の推進等がなされているが、これまで行ってきた支援については引き続き、自信を持って取り組んでください。今後も舞鶴市のこども支援の拠点として発展されることを期待します。

◆特に良かった点

◇【23 地域との関係が適切に確保されている。】

自治会に加入し、地域行事に積極的に参加しています。地域住民と日常から挨拶するなどつながりをもっており、地域貢献として、近隣の高齢者世帯の雪かきを子どもと一緒にしています。地域の田んぼで田植えを実施し、地域の協力を得て農業体験をしています。地域の子どもが普段から遊びにくることがあり、自由に出入りできるようにしています。その際には、おやつを提供などしています。また、運動会の行事にも地域の子どもが参加しても良いようにし、その際にはお弁当の提供などもしています。

◇【A11 主体性、自律性を尊重した日常生活】

子どもの年齢に応じて自立生活ができるように支援をしています。高校生には調理実習や卒業した時にすぐに使う公共機関などの活用方法やお金の使い方などを自立訓練として学ぶ機会を作っています。小・中学生には地域のお祭りなどに以前は職員がついていっていたが友達と行けるようにしています。また、主体的に近隣の雪かきをするなどしており、近所の人からお礼を言われることがあり、それを子どもに伝えるようにしています。

◇【A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。】

退所後に相談の連絡が来る子どももあり、内容によっては訪問するなどして対応しています。アパートの保証人などに困るケースもあり、保証人になることもあったり、消費者金融や就労先の対応もすることもあります。退所後に子連れで帰ってくる機会があります。高校3年生に向けて退所後の先輩が就職の話をしにきてもらう機会を作っています。

◆特に改善が望まれる点

◇【5 中長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。】

中長期計画は策定されていましたが、具体的な数値目標の設定や見直しできていませんでした。また、中長期計画を踏まえた単年度の事業計画が策定されていませんでした。策定が望まれます。

◇【15 総合的な人事管理が行われている。】人材認証を取得されるためにもキャリアパス制度の構築をお願いします。

必要な人材に関する考え方や職員の育成が明文化されており職員会議や年に1回の面談で説明を行っていました。しかし、キャリアパスの仕組みは構築されていませんでした。職員が自ら将来の姿を描くことができるようにするために検討されてはいかがでしょうか。

◇【マニュアルと規定の整備】

業務マニュアル等の整備はされていました。しかし、苦情解決業務規程、虐待防止マニュアル、事故対応マニュアル等の定期的な見直しが行われていませんでした。マニュアル一覧を作成して再整理をされてはいかがでしょうか。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

私たち職員の役割は社会から預かっている子どもを、自立に導き社会に送り出すことである。そう思いながら生活していますが、今回の第三者評価を受け、組織としての不十分な個所を気付かせていただいたり、新しい発見があったりしました。そして、なによりも、児童や職員に温かい眼差しと共にエネルギーの充填もいただきました。2年後にはユニットとなり、課題が山積みになりますが、次回には指摘いただいた所がクリアできるように努力したいと思います。

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
基本理念は明文化されており、パンフレットやホームページに記載している。入職時に「新任職員業務マニュアル」を配布し、基本理念、運営方針を説明している。また、「入所のしおり」を用いて保護者や子供に説明をしている。「基本方針に基づいて」という資料を配布して、子どもや保護者に浸透している。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
全国の動向については、全国、近畿、京都の養護施設の協議会に参画して情報を得ている。地域の情報は地元行政担当課や子どもの通っている学校から得ている。要保護児童対策協議会との連携を図っている。行政より委託を受けてデイサービス等を実施している。児童相談所等と連携をして養護が必要な子どもの数や動向を把握している。「年度当初の児童の状況」を作成し、分析を行っている。		

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

財務状況を把握して、具体的な課題や問題点を明らかにして、改修や人材配置、地域ニーズに応じた対応を行っている。人材配置については、ユニット化や定員数など国の動向を踏まえ対応を行っている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	
【コメント】 中長期計画が策定され、人材確保・育成等具体的な内容が立案されている。しかし、数値化した目標の設定及び必要に応じた見直しが行われていない。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【コメント】 中長期計画は策定されているが、踏まえた単年度計画が策定されていない。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】 中長期計画の策定に当たっては、職員会議で話し合いを行っている。また、職員全員が様々な施設を見学を行い、その内容を中長期計画に反映するようにしている。しかし、計画の評価、見直しは行われていない。		
②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	
【コメント】		

子ども全員が集まる食事の際に、ユニット化することや建て替えについて周知をするとともに意見を聞いている。小舎制の施設見学に子どもも連れて行っている。また、退所した子どもにも意見を聞いている。」伸び行く会」という子どもの自治組織を通じても意見を聞いている。しかし、資料の作成や虐待ケースが多いこともあり、保護者への説明の機会がない。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○
【コメント】 処遇については、職員会議で話し合っている。「新任職員業務マニュアル」に基づいて留意するべきところを確認している。第三者評価については定期的に受診している。自己評価に当たっては、職員がグループに分かれて行い、分析検討をしている。		
②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○
【コメント】 評価結果を分析した結果やそれに基づく課題については職員会議で共有化を図り、業務マニュアルの見直しをおこなっている。しかし、改善策を策定して具体的な改善につなげていない。		

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○
【コメント】 「業務マニュアル」に「職員体制」が明確化されており、職員に周知している。寮長等の役割が「管理運営規定」に記載され、明確化されているとともに、ホームページで施設方針や取組を明確化している。寮長の不在時には、副寮長に権限移譲するなどのことを「管理運営規定」に明示している。		

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

「経理規定」に業者からの一定の額を超えた物品等の購入などについてのルールが明確化されている。寮長は法令順守についての研修や勉強会に参加し、規定などに反映している。各部署の担当者がそれぞれに関連する研修会に出席し、他の職員に周知している。しかし、関係法令のリスト化などはできていない。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

養育・育成記録、支援計画については寮長が目を通し、チェックしている。職員会議に寮長は毎回出席し、全職員に指導することもある。通常の面談以外に適宜、面談の機会を持ち、気になることについて、アドバイスや話を聞く機会を持つようになっている。職員の研修については、その職員の経験等にに応じた研修の案内をするなどしている。

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

財務については毎月の稼働状況等を作成している。配置職員以上に加算とパート職員を配置している。有給を取得しやすいように積極的に声掛けをするなどして職員の働きやすい環境づくりに努めている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		
必要な人材に関する考え方が明文化されている。小規模化、家庭的養護の推進に向けた人的配置等について検討を行っている。施設運営計画において職員の育成が明記されている。しかし、キャリアパスの仕組みは構築されていない。		
②	<p>15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		
「業務マニュアル」の中に「職員として心得るべきもの」として期待される職員像を明文化している。ホームページに求人ページを作成している。ボランティアやアルバイトから入ってもらい、職場の雰囲気などを知ってもらうなど工夫をしている。OJTを導入し丁寧な指導をできるようにすることで、定着化が図れている。しかし、人材確保の計画等を考えとしては持っているが、明文化されていない。		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	<p>16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p><input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		
有給取得や残業管理について把握し、有給取得が不十分な職員には寮長の命令で取得するように促し、均等化を図っている。また、寮長だけでなく、主任なども含め必要に応じて職員との面談を行っている。ソウエルクラブや共済会の加入をしている。産休、育休、時短勤務などの規則が就業規則に明文化され、実際に取得している実績がある。福利厚生、懇親会を実施している。業務上で意欲の出る指導をするように管理職と意識共有するようにしている。		

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

入職時や職員会議等で施設として「期待する職員像」について説明している。個人面談の際にも伝えており、勤続年数や職務に応じた研修を受講させているが、職員一人ひとりの目標設定が行われていない。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

必要とされる必要とされる専門資格については、期待する職員像とともに明示しており、取得状況や配置の把握はしている。発達障害の対応も増えているため、研修案内があれば非常勤含めた全職員に案内している。しかし、研修計画は体系的に策定されていない。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○

【コメント】

研修履歴・報告を記録し、ファイリングしている。OJTを導入しており、3ヶ月を目途に振り返りを行っている。OJTについては、習熟度が分かるチェックリストや振り返りシートを活用し、指導者と受けてのやり取りを行っている。事務長が判断し、研修内容をみて適切と思われる職員を派遣するようにしている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
【コメント】		
「実習生マニュアル」を整備している。マニュアルには実習生受け入れの基本姿勢が明文化されている。保育士、社会福祉士、児童相談所、介護等体験などの実習生受け入れをしている。大学と養成校の指定の提携をしており、そこからの実習生を受け入れている。実習指導者の研修受講者がいる。実習資格によって、養成校と相談の上、プログラムを変えている。		

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【コメント】		
ホームページ上、WAMネット上で施設の運営状況を明示している。デイサービスなどで保護者に向けた便りを発行している。町内会の便りで施設の行事を発信している。自治会を通じて施設のイベント案内（回覧板を使った）をしている。小学校・中学校の便りでも施設のイベント案内をしている。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	
【コメント】		
運営規定に明文化されている。社会保険労務士や税理士の導入は行われていない。監事である税理士による内部監査のみとなっている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】 自治会に加入し、地域行事に積極的に参加している。地域貢献として、近隣の高齢者世帯の雪かきを子どもと一緒にやっている。地域の田んぼで田植えを実施し、地域の協力を得て農業体験をしている。地域住民と日常から挨拶するなどつながりをもっている。地域の子どもの普段から遊びにくることがあり、職員に声をかけたら自由に出入りできるようにしている。その際には、おやつを提供などしている。また、運動会の行事にも地域の子どもの参加しても良いようにし、その際にはお弁当の提供などもしている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	○
【コメント】 夏祭り等のボランティアの受け入れ時に秘密保持等に係る説明を行うとともに誓約書ももらっている。小中学校のとの連携を密にしており、学校行事には子どもがボランティアを行っている。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
【コメント】 在籍中の児童や卒業生が利用できる施設や社会資源を明示したリストを作成し掲示している。関係機関との連携は、子どもが通う小中学校をはじめ子育て支援ネットワークや要保護児童対策地域協議会に参画するとともに、日常的に連携を図っている。		

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b
		<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○
		<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	
		<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	
		<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	
		<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○
【コメント】			
委託事業として放課後児童健全育成事業やデイサービス事業、子育て短期支援事業を行っている。また、夏祭りやクリスマス会を開催して地域住民との交流を図っているが、研修会の開催等は行っていない。			

	②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
		<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○
		<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
		<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○
		<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
		<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
		<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
【コメント】			
核家族やひとり親家庭のニーズに対応して委託事業としてトワイライトステイ事業やショートステイ事業を行っている。民生委員の学習会を開催することがある。地域で高齢者の見守り依頼があれば対応したり、子育て相談を受けている。			

Ⅲ 適切な養育・支援の実施
1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	第三者 評価結果 a
		<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
		<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
		<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
		<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
		<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○
【コメント】			

「業務マニュアル」に子どもを尊重した養育・支援の倫理綱領が明示されている。職員会議等で共通理解を図るための研修を実施している。虐待のニュースなどがあった場合には職員会議などで周知している。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	

【コメント】

「プライバシー保護マニュアル」を整備して、職員全員に配布して周知している。新採の職員にも説明をしている。一人になりたい時には指導員室を使って良いことにしている。入所時に「子どもの権利擁護」の冊子を児童相談所より配布と説明を行っている。「虐待として報告のあった事案」として、事例集を職員に配布し、権利擁護について周知している。不適切な対応マニュアルは確認できなかった。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

入所にあたっての同意と説明は児童相談所と連携して行っている。施設としては、入所時にしおり、パンフレット、「子どもの権利ノート」を配布し、ホームページに提示して説明している。事前の見学も受け入れている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

しおり、パンフレット、「子どもの権利ノート」を活用して入所時やその都度、説明している。意思決定が困難な子どもや保護者への説明については、児童相談所が行っており、配慮について明文化されたものは確認できなかった。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

卒業後に施設に何かあれば相談して良いことを本人に伝えるようにしており、本人が相談したいと言って連絡してくることもある。卒業後の子どもを気かけ、職員が関係づくりをしている。措置変更があった場合には、行先に引き継ぎ文書を渡すようにしている。退所後の状況については、個人情報の保護の関係等から、児童相談所からは情報が得られないケースがある。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

「伸び行く会」があり、高校生を中心に会長など3役を決め、行事の運営や施設への要望を他の子どもに聞いて要求するなどの活動をしている。会合の前に各部屋で話し合いを行い、意見を出すようにしている。その際、「部屋帳」にその内容を記載し、記録するようにしている。各部屋で座る食卓で意見を聞き、部屋ごとに出た意見などを職員に伝え、それを朝礼で共有している。個別対応などが必要な場合には適宜そのように対応している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	
<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		

【コメント】

「苦情解決業務規程」で苦情解決の仕組みを明文化している。第三者委員に子どもが意見を言う場を設けているが、その際に話す子どもはほとんどいない。「せんせいちょっと」という配布物を作成し、子どもに意見を言いやすい環境を作るようにしている。しかし、口頭で意見を言うようにしており、仕組みにはなっていない。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

「入所のしおり」を用いて相談できることを伝えている。相談できる窓口を何名か設けている。動物を飼っている部屋は癒しの場となっており、対話の時間が持ちやすくなっている。子どもが施設外の人と関わる機会を多く作るようにしており、子どもが自然と他者に話しかけられる環境づくりができています。時間のある時は、寮長から声掛けをして、子どもとのかかわりを積極的に持つように促して子どもが甘えられる環境を作っている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

子どもから相談があれば、状況把握し、朝の会で職員間で共有するようにしたり寮長の判断で即時的に対応している。「苦情解決業務規程」苦情受付担当者の業務として、対応の手順が明文化されている。第三者委員の交代時にはマニュアルを見直すことがあるが、定期的な見直しがされていない。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

ひやりはつとを記録するようにしている。改善・対応についての検討については、職員会議で行い、全員に周知している。「事故対応マニュアル」を整備し、全職員に配布している。キャンプ研修で応急処置の方法を職員が学ぶ機会がある。各フロアの電話の側に「事故対応マニュアル」を置いているが、マニュアルに沿った訓練の実施はされていない。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○

【コメント】

「感染症マニュアル」「衛生管理マニュアル」「病人対処マニュアル」を作り職員に周知している。栄養士が食中毒の研修に出るようにしている。子どもには、「手洗いの手順」「熱中症」の啓発ポスターを用いて注意喚起している。インフルエンザの予防接種を職員も子どもも接種している。感染症が発生した場合には、必要に応じて保健所へ報告をしている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○	

【コメント】

「事故・防災マニュアル」を整備している。備蓄は3日分保存し、消費期限の管理をしている。防災マニュアルが整備され、夜間想定等避難訓練を定期的に行っている。消防等と連携し、子どもも参加して避難訓練をしている。夜間想定での避難訓練時には、職員の緊急連絡網の訓練も行い、何分で施設に到着するか測るようにしている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

養育・支援の標準的な支援方法は、「業務マニュアル」に記載している。プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明文化されている。年に1回、見直しをする際に職員に周知徹底を行っている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

業務マニュアル等については、年に1回見直しをしている。見直しにあたっては、自立支援計画の内容や子ども等からの意見を反映することがある。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

児童相談所から届くインタビューシート「児童相談所援助指針」を基に「自立支援計画書」を立案している。立案に当たっては学校とも懇談を行い反映させている。計画書立案後に職員会議にて内容を職員で確認している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

自立支援計画は、児童相談所との協議をして評価している。1年に1回の見直しを実施している。見直したものを職員会議で提示して他の職員と共有、確認している。自立支援計画書を事業の特性から急に変更することは考えにくく、変更する際の流れを明文化はしていない。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。		
①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○
【コメント】		
自立支援計画書の目標に対しての記録を取るようになっている。記録の書き方について職員間で統一した見解となるようになっている。記録は回覧・閲覧できるような仕組みになっている。保管場所は施錠している。		
②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○
【コメント】		
「プライバシー保護マニュアル」「情報公開・開示規定」「記録等の管理、廃棄マニュアル」「特定個人情報の適切な取り扱いに関する基本方針」を整備して管理している。「児童の写真・氏名の取り扱いについて」を作成し、保護者などに確認している。小学校などからの問い合わせにも応えるようになっている。慰問の方には写真撮影を控えてもらうようになっている。		

内容評価基準（41項目）A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○
【コメント】		

スーパーバイザーの専門職は配置していないが、寮長や他の職員がアドバイスしたり、提案をするようにしている。職員会議で細かな議題や情報共有を行っている。朝の会に1時間ほど時間を取って行っており、担当職員だけでなく全職員が子どものことを共有している。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○

【コメント】

ライフストーリーワークを作成し、卒業間近の子どもには生い立ちや寮に来た当初のことを伝えるようにしている。親のことを悪く言わないように高校進学あたりから伝えるようにしている。性教育の際に自分が生まれてきたことについて話し、親に愛情があることを伝えるようにしている。

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○

【コメント】

何でも意見を言って良いことを入所時から普段も伝えるようにしている。日常的に自己肯定感を子どもたちが持てるような声掛けを各部屋でも言うようにしている。子どもをどのように育てるか、子どもを認めることをしてから叱るなどを伝える研修を実施している。「オレンジプログラム」という手法を用いた研修を実施している。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

異年齢の集団生活の中で大きい子どもが小さい子どもに食事の際や普段の生活の場面で世話をしたり、気に掛けることが自然にできている。小さい子は大きい子の行動を見て行動していることがある。他者に対して配慮できる子どもを育てるように心がけている。障がいのある子どもへの配慮も自然とできるようになっている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○

【コメント】

伸びゆく会や各部屋、学年ごとに話をする機会を設けている。職員会議で他施設の事例などを通じて虐待防止の研修をして共有を図っている。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、定期的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○

【コメント】

虐待防止研修に出席し、職員に伝達研修を行っている。事例検討のような形で研修を実施していることもある。性教育の中で自分自身を守るための具体的な方法を伝えている。小学生は防犯ブザーを携帯させている。学校まで毎日、職員が送り迎えしている。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

男性職員は女性の部屋には行かないように指導している。職員会議で寮長より虐待についての新聞記事を配布し、どういった場面で虐待が起きてしまうのかなどを研修している。日常の言葉遣いの中で知らずに使う言葉も虐待にあたることを伝えるようにしている。新人研修で虐待についての研修をしているが、虐待研修マニュアルの整備がされていない。

(5) 思想や信教の自由の保障	①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a
		<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○
		<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。	○
		<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○

【コメント】

宗教について、特に制限をすることなく接している。

(6) 子どもの意向や主体性への配慮	①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
		<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○
		<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○
		<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○
		<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	○

【コメント】

虐待を受けた子どもや精神的な配慮が必要な子どもについて、以前よりいる子どもに事情を伝え、配慮してほしい旨を伝え、協力を得ることがある。夜になかなか寝付けない子どもは宿直者が添い寝するなどして対応している。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○

【コメント】

生活改善に向けて子どもとともに考えている。事例として門限を延ばして欲しいという要望があった際に、各部屋でどのようにすれば実現できるか職員の対応のことなど広い視点で考えられるような話し合いの機会をもった。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活	①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a
		<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	○
		<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○
		<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○
		<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○
		<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○
		<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○

【コメント】

高校生を対象に調理実習を毎月行っている。各部屋ごとにお客様の出迎えなど自立訓練を行っている。高校3年生には、卒業した時にすぐに使う公共機関などの活用方法を自立訓練として学ぶ機会を作っている。地域の行事に参加したい意向や高校生などがボランティア活動をしたいという希望があれば行けるようにしている。祭りなどに以前は職員がついていったが友達と行けるようにしている。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。	
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○

【コメント】

金銭管理、感覚を養う訓練をしようと考えているが、今はできていない。新しく建て替える際には一人暮らしの訓練ができるような環境を作ることを検討している。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	

【コメント】

家庭復帰後の支援を行っているが、ケースによっては、個人情報の関係から家庭復帰後の支援ができない現状があり、その記録ができていない。そうしたケースについては児童相談所において把握している。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

措置継続には対応するようにしている。措置が切れても生活リズムがつかめるようにフォローするなど支援している。退所後も顔を見せに来る子どももいる。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○

	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所後に相談の連絡が来る子どももあり、内容によっては訪問するなどして対応している。アパートの保証人などに困るケースもあり、保証人になることもある。消費者金融や就労先との対応もすることもある。退所後に子連れで帰ってくる機会がある。高校3年生に向けて退所後の先輩が就職の話をしにきてもらう機会を作っている。卒業生が差し入れしたり、現在いる子どもに食事を奢るなど面倒を見てくれることがある。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
--------------	-------------

①	<p>A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起きているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

入所前の環境や思いなどについて職員間で共有している。注意する時は子どもの真意を理解して注意するようにしている。

②	<p>A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○

【コメント】

子どもたちにとって日常生活が満足しているかどうかを常に考えている。各部屋に職員が必ず滞在するようにしている。小さい子どもには寝るまでついているようにしている。宿直者が添い寝するなどして信頼関係を構築している。

③	<p>A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○

	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

生活の中で職員は子どもと一緒に取り組んだり、見守るなどして本人が判断して行動している。寮長は、その子どもがどこまでできるのか何ができないのかを見極めて判断、支援することが必要であると職員に指導している。ケース担当が叱ったとしても他の職員が何故叱ったのかを伝えるようにしている。職員間の連携の中でフォローと連携しあう体制づくりができています。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

子どものニーズについては応えるように配慮しているが、ゲームなどについては、1日30分という区切りをつけなどしている。学習支援のボランティアを受け入れている。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるように子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 見やすわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上で必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	○

【コメント】

自立のプログラムや地域の人との関係の中でのルールを理解できるようにしている。生活の中や外食、買い物をする中で社会規範を学ぶ機会を作っている。洋食を準備してナイフやフォークを使う機会を設けている。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎える際の食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○

【コメント】

家庭的な雰囲気です。食卓を囲み、温かいものを温かい状態で食べることができるようにしています。調理員も一緒に食卓を囲むなどしています。嗜好調査を実施し、食堂に結果を壁に張り出している。栄養士に直接意見を伝えることもある。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもの対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○

【コメント】

アレルギーの把握をして、別メニューなどで対応している。病気の時には食べやすい食事を別メニューで提供するようにしている。その際には一人で食べる事が無いようにそばで職員が見守っている。カレーライスは幼児用と小学生以上用で作り分けをしている。ホットケーキや焼きそばなど自立訓練の一環で子どもたちが調理している。献立の振り返りをする会議を実施している。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○

【コメント】

ひらがなの献立と漢字の献立を作っている。郷土料理を食べることをサークル活動で行っている。おせち料理もすべて手作りとなっており、四季に応じた経験をさせるようにしている。後片づけの習慣を習得できるように子どもたちが当番で行っている。買い物を通じて材料の選び方を知る機会は課題とらえている。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

成長の著しい時期の子どもには新しい服を買うようにしている。中高生は地元での買い物だけでなく、竜王のアウトレットや神戸まで職員がついて買いに行くようにしている。パジャマに着替えるなどの習慣が無い子どももいるため、声掛けするようにしている。中学生以上は自分で洗濯するように促している。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	○
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいうように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

部屋は整理整頓されている。普段から整理整頓するように指導している。共有スペースも当番を決め、皆で清掃・管理するようにしている。雑巾の絞り方など、日常の生活の中Dえ教えている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	○

【コメント】

ベッドが個人のスペースとなっている。年少児の居室は宿直室の前に設置している。小規模グループの憩いの場を設けている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○

【コメント】

入浴は毎日入れるようにしている。夏場は帰宅後や草引き後にシャワーができるようにし、夜にも入浴できるようにしている。就寝は小学生21時、中学生23時に就寝している。便秘のことなど日常の体調管理は担当職員がしている。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

定期検診を年2回実施している。インフルエンザの予防接種を全員受けている。服薬が必要な子どもの管理は職員が行っている。医療ケアが必要な子どもには薬が切れないように対応するなどしている。定期通院の補助をしている。職員が医療や健康に関する学習の機会には特別には設けていないが、必要性にある子どもがいる場合には学ぶようにしている。感染症の研修を実施している。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

性教育に関して、職員が学習会に参加して部内研修を実施している。男女や年齢別に分けて性教育の時間を取っている。「性教育学習報告書」を作成し、年齢に応じた取り組みを行っている。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○

【コメント】

管理は子ども自身に任せるようにし、私物には名前を書くように指導している。新しく入った子どもが誰からでも借りることができると思ってしまうが、そうではないことを伝えるようにしている。施設の特徴で、一人の所有物を皆で上手に使うようにできている。共有するルールを教えるようにしている。字が読めない子どもにはシールや色などで分かるように工夫している。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	○

【コメント】

撮影した写真は子どもごとにアルバムを作り、卒業時に渡すようにしている。アルバム作成には本人が関わったり、サプライズでプレゼントにしたりしている。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を守る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

激昂する子どもには、別室で職員がついてクールダウンするようにしている。対応について「オレンジプログラム」を用いて職員研修を行っている。ども同士で注意しあう場面もあり、それが良い効果となることもある。家が恋しくなって無断外出する子どもがあり、警察と連携することがある。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人（職員）相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○

【コメント】

子どもたちの信頼関係を築くように心がけている。子どものほんの小さな変化に気づくようにし、事が大きくなる前に対処するようにしている。他者をバカにしたり、いじめるようなことがあれば、部屋で話し合い、解決するようにしている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	○

【コメント】

昔は無理やり親が引き取りに来るケースがあったが今は無い。卒業後の行先も親に伝えないようにしている。その子どもが施設に居るか居ないかも知らせないようにしている。職員には問い合わせがあっても「わからない」と答えるように伝達している。警察とも連携している。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

心理検査を受けて対応が必要な場合は、入所時にスーパーバイザーとして心理士にアドバイスを受けることがある。対応に配慮が必要な時には自立支援計画に位置付けている。しかし、心理士の配置及び心理療法室の設置はない。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

知的障がいの子どものも多く、段階に応じたグループに分けて、学習している。中学生には静かに勉強ができる環境づくりをしている。ネット塾を活用している子どももあり、ipadを活用して学んでいる。勉強に対して積極的な子どもが増えている。高校や大学進学を目指すように促している。子どもの集団生活の中で競い合い、良い効果の中で成長している。支援学級の子どもは通学バスを活用している。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	○

【コメント】

夢を持たせ、高校や大学に進学できることを伝え、学ぶことを促している。給付型の奨学金の活用などをするようにしている。高校まではほぼ全員進学するようにしている。就職まで見るようにしており、公務員や有名企業に就職している子どももいる。高校との連携で就職活動に熱心に取り組んでいる。卒業後も資金面や生活面の支援をする場合もある。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

高校生は、夏休み、冬休みにはアルバイトをするようにしている。施設の先輩がアルバイトをしてきたところでの就労の機会であるため、アルバイト先との信頼関係で就労しやすく定着している。卒園後を見据え、運転免許の取得を奨励するようにしている。

<p>(11) 施設と家族との信頼関係づくり</p>	<p>① A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>精神障がい親が多く、連絡があると長電話になるなどあるが、対応して家族支援を行っている。その際には児童相談所と情報共有している。児童相談所と相談して一時外泊することもある。心配な家庭にはまずは施設で1時間だけ遊ぶところから始め、宿泊せずに一時帰宅するなど慣れることから始める。様子を見て、帰宅が難しい場合は帰さないという判断をすることもある。子どもが帰宅を嫌がることもあり、慎重に進めている。</p>		
<p>(12) 親子関係の再構築支援</p>	<p>① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。</p> <p><input type="checkbox"/>面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもとコミュニケーションが取れない親もいるため、一緒に遊ぶ機会を作り、子どもと関係が作れたか様子を見て職員が離れるようにすることもある。児童相談所の心理士が来て様子を見ることもある。お話し外泊の際には児童相談所が家庭訪問をすることもあり、児童相談所と密接に連携している。</p>		
<p>(13) スーパービジョン体制</p>	<p>① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員に対するスーパービジョンを定期的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>国が定める基幹的職員を設置している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>スーパーバイザーの配置ができていない。寮長が行っている現状があるがスーパーバイザーの研修を受けていない。</p>		